

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870200896		
法人名	株式会社クリエイト		
事業所名	グループホーム久慈浜	ユニット名(2F)
所在地	日立市久慈町3-4-14		
自己評価作成日	令和 元年10月4日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和元年11月

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意見を取り入れ食事会やカラオケなど企画実施している。庭の手入れや花壇・プランターの整備をし、利用者様が済み約九楽しめる環境を整備し維持している。畑では野菜作りを行ない、苗を植えたり収穫をしていただき、できた野菜を食事やおやつに提供している。年2回の消防立会いの総合消防訓練のほか、地震・津波、洪水、竜巻、近隣火災などを想定し、毎月自主防災訓練を実施している。施設内研修では接遇について考え、不適切ケアが行われていないか職員の言動を振り返り話し合いを行なっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点	
-------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に全員で理念3項目を唱和し意識づけしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会などに参加している。 近隣商店で買い物をして店の方と話をしたり、外食で近隣のレストランを利用している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民に声をかけ事業者内で行なう応急手当救命講習に参加していただきAEDの使い方など一緒に学ぶ機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。議事録は2階エレベータ前にも掲示し誰でも見られるようになっている。会議での内容は必要に応じ、スタッフ会議で話し合っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、市社協の介護相談員が来所される。市の事業所連絡会や研修に参加したり、運営推進会議へ出席してもらい意見交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束適正化のための指針」を作成しいつでも確認できる。身体拘束廃止委員会を設置し定期的に研修を行なっている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を定期的に行ない、事業所内にポスターを掲示して常に意識するようにしている。利用者様へのケアが不適切ケアになっていないか虐待につながらないかスタッフ会議で話し合い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は施設内研修で学ぶ機会を持ち、成年後見制度については手続き支援を行ない現在も利用されている方がいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて十分理解が得られるよう説明し契約を取り交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、面会時、イベント時などにご家族の意見要望をお聞きし運営に反映している。家族会でアンケートをとり運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議、週間報告書、個別面談等で意見や提案を聞く機会を設け反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週間報告書の提出、外部研修参加等が賞与に反映されること、各種資格取得により手当が付くこと等を伝え、向上心を持って働けるよう努めている。希望の休みがとれ、残業が無いよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内研修を行なう。外部研修の案内資料を提示し希望の研修に参加できるよう勤務を調整している。新人には一定期間指導者が付き仕事を覚えてもらうようにする。施設内に介護関連の図書を置き貸し出しを行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと運営推進会議の委員として互いに出席している。花見、花火大会、応急手当救命講習等で他のグループホームと交流している。市の事業所連絡会や研修等で他事業所と意見交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安なく入所していただけるよう入居前に利用者様と面談したり見学に来ていただいている。ニーズに応えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学していただき、不安を払拭し信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行ない、そのときまず何をしたらよいのか話し合い必要な支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、米とぎ、掃除、洗濯など出来ることは行なってもらい役割を持って生活できるよう支援している。うどん作りやおやつ作りなど職員と一緒にいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を設けず好きな時に面会、外出、外泊ができる。アクシデントがあれば一緒に対策を考えることもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人も面会に来ていただき居室でゆっくり過ごしていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で話ができるよう座席の配慮をしている。また一人ではないよう目配りをする。1・2階自由に行き来でき、イベントなどでも1・2階の利用者様が交流する機会が多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し退去された方の病院に面会に行ったり、家族と話をしている。 電話がかかってきたり、相談があればその都度対応し支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はそれぞれ受け持ち入居者様の希望を聴き実現できるよう検討している。困難な場合には今までの様子やご家族からの情報をもとに検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを実施している。ご家族にも昔の話を聞きサービスにつなげるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画に沿った介護を実施し、食事、水分量、排泄、睡眠、バイタルサイン等を記録し把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各受け持ち担当者が利用者様・ご家族の話を伺い、モニタリングし診療情報提供書や看護師の意見を取り入れ、カンファレンスを行なって介護計画を作成している。状態変化時はその都度見直しを行なう		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録はご本人の発言、行動、表情などを後で見直してもわかるよう細かく記入し共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ラジオ体操を毎日実施。週1回ピラティスの講師に来てもらったりカラオケを行なう。各階にあるエアロバイクはいつでも利用できる。希望者は診療所や歯科医の往診を受けたり、月1回散髪も施設内で行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の消防署、交番に協力を仰いでいる。地域の図書館、レストランを利用し、商店で日用品を購入する。外出時地元のタクシーを利用する		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人・ご家族の希望で決定している。ご家族と通院したり、主治医の往診を依頼している方もいる。職員が通院に付き添う時は主治医に状態を説明したり相談をしている。毎年希望者は協力医によるインフルエンザ予防接種を受ける		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時、緊急時は直ちに報告し指示をもらい病院受診等が迅速にできるよう対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、施設での様子、経過のサマリーを渡し、入院中も面会時や電話で情報交換、相談を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応にかかる指針」「看取りに関する指針」をしている作成。契約時に説明し方針を共有、同意を得ている。段階に応じご家族と話し合いをしながら支援できるよう努める		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防による応急手当救命講習を施設内で開催し、職員は定期的に通講している。AEDを設置し、緊急時に対応できるよう訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防立会いの総合消防訓練を実施している。夜間訓練、洪水、津波、竜巻等いろいろな災害を想定し毎月、自主訓練を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。 介護記録にも他利用者様の名前を書くときはイニシャルで記載している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉、音量、しぐさなどで伝え、自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決めていないがその人らしい過ごし方ができるよう個々に合わせ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やマニキュアをしている方もいておしゃれを楽しんでいる。自分で選んだ好みの服が着られるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜を献立に取り入れ一緒に下ごしらえや調理をする。 イベントとして、外食やバイキング、庭での食事や1・2階合同昼食会などを開催する		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者のカロリー計算された食事を提供している。水分量は記録して把握する。月1回体重測定を行ない増減を把握し食事量を調整している。嫌いなメニューには代替品を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの言葉かけをし、できない方には介助で口腔ケアを行なう。希望者には週1回歯科医、歯科衛生士による検診、口腔ケアを行ない必要な方には義歯の作成や調整をもらう		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、失禁を含め排泄の記録を行ない、尿意の訴えのない利用者様の排泄のサインを見逃さず言葉かけやトイレ誘導を行ないできるだけトイレで排泄できるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂ったりオリゴ糖、乳製品を摂取して頂いたり、できるだけ体を動かすよう支援している。主治医と相談し下剤を調整しながら内服している方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回、15時頃から入浴しているが希望に応じいつでも入れるよう支援している。季節によってゆず湯など楽しめるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めていない。介護記録にも睡眠時間を記入し状態に応じ昼寝をしている。入居時なじみのベッドや布団を持ってきていただき使用している。入居者様の状態によっては職員の目の届く場所で休んでいただくこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルと薬袋で確認できるようにし用法・用量など理解している。チェック表を使用し複数回、数人でチェックしながら誤薬がないよう努めている。飲みにくい薬などがあれば医師や薬剤師に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望を確認しながら、役割が持てるよう家事などができるよう支援している。趣味の活動なども意欲的に行えるよう支援している。イベント時にはノンアルコールビールを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣への散歩や買い物などの外出は日常的に行なっている。希望者にはホームセンターやコンビニにも出かける。ご家族と外食や旅行、法事などに出かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方はご家族と相談しお金を所持している。近隣店舗で菓子や日用品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の兄弟から手紙が届き、ご家族に援助してもらいながら電話で話をされている 年賀状を出せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や洗面所に庭に咲く花をに飾っている 季節に応じ、加湿器、コタツ、トイレ・脱衣室のヒーターを設置する。 施設内は日中BGMを流している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、和室、エレベーター前のソファ等それぞれ好きな場所で過ごすことができる。気の合う利用者を自分の居室に招いて話をされている 1・2階は自由に行き来でき他フロアでお茶を飲んだり話をして過ごすこともできる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、テレビ、テーブル、椅子、コタツ、仏壇など自由に持ってきていただき好みの空間を作っていたりしている。ベッドではなく畳に布団をいて寝るなど自宅にいたときと変わらない環境で過ごすことができる、		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、階段に手すりがあり安全に歩行でき歩行練習もできる。居室やトイレの場所がわからない方には大きく名前や「トイレ」の表示をしている		